

プレスリリース

2020 年 01 月 27 日

2020 年 4 月 11 日（土） OPEN

弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市吉野町）

開館記念 春夏プログラム

Thank You Memory 一醸造から創造へー

会期：2020 年 4 月 11 日（土） - 8 月 31 日（月）

参加アーティスト：

尹秀珍（イン・シウジェン）、ジャン＝ミシェル・オトニエル、笹本晃、奈良美智、畠山直哉、藤井光、ナウイン・ラワンチャイクン、潘逸舟（ハン・イシュ） [弘前エクスチェンジ]



左：ナウイン・ラワンチャイクン《OK Nakhon》2016 年 Courtesy of the artist and Navin Production [参考図版]

中央：奈良美智《A to Z Memorial Dog》2007 年 ©Yoshitomo Nara 撮影：長谷川正之

右：笹本晃《random memo random》2016 年 ©Aki Sasamoto, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo [参考図版]

弘前れんが倉庫美術館は、明治・大正期に酒造工場として建設され、国内で初めて大々的にシードルを製造するなど、約 100 年の歴史を刻んできた煉瓦倉庫を改修し再生される、新しい美術館です。

美術館（ミュージアム）の語源は、古代ギリシャ神話に登場する記憶の女神の娘である学問・芸術の女神たちの神殿の名前に由来します。つまり、記憶と芸術は不可分であり、美術館は過去、現在、そして未来へ繋がる「記憶」をめぐる装置とも捉えられるでしょう。

開館を記念する本展では、場所と建物の「記憶」をテーマに、煉瓦倉庫や弘前の歴史に新たな息吹を吹き込む 8 名のアーティストによる新作を中心に紹介します。改修工事の記録にもとづく作品や、弘前市民の協力により制作された作品など、この場所ならではの作品が、煉瓦倉庫のダイナミックな空間で展開されます。また 2006 年に煉瓦倉庫で開催された「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」展をサポートした地域のボランティアの方々への感謝の気持ちとして贈られた、奈良美智《A to Z Memorial Dog》が再展示されるほか、煉瓦倉庫の歴史的資料も展示されます。さらには建築家、グラフィック・デザイナー、アーティスト、そして美術館が協働して作り上げた作品や展示構成も見どころのひとつです。

「醸造」の場から「創造」の場へー本展によって、場所の記憶が未来へ継承されること、そして記憶を巡る装置としての美術館が起動し、広くアーティストや市民が集まることで、未来の記憶がつくられていくことを目指します。

展覧会のみどころ

1. ダイナミックな建築に共振する作品群が新たな空間体験を創出

酒造工場時代の名残を感じさせる、煉瓦倉庫のダイナミックな建築空間を活かした展示を行います。畠山直哉は建物の改修過程を記録した写真を館内各所に展示するほか、笹本晃は煉瓦倉庫の建具や資材を取り入れたインスタレーション作品を発表します。

2. 弘前の歴史や人々との対話を通して制作した新作を発表

アーティストたちは弘前を訪れ、地域や煉瓦倉庫を取材し、この場所のために制作された「サイト・スペシフィック」な新作に挑みました。タイ出身のナウィン・ラワンチャイクンは、30人以上の市民に対して重ねたインタビューをもとに大型絵画と映像作品を発表します。また中国出身のイン・シウジェンは、市民から提供を受けた100着におよぶ古着を素材とした立体作品を制作します。

3. 弘前出身のアーティスト・奈良美智《A to Z Memorial Dog》の再展示

2006年、改修前の煉瓦倉庫で開催され、8万人近くの来場者を集めた「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」展。その展覧会に関わった地域の人々のために弘前出身のアーティスト奈良美智が制作し、それ以来煉瓦倉庫のシンボルとして広く愛されてきた《A to Z Memorial Dog》が、建物の改修を終えて約2年ぶりに再展示されます。

4. 煉瓦倉庫を舞台に、建築家、グラフィック・デザイナー、アーティストらがコラボレーションを展開

煉瓦倉庫の歴史と向き合い、美術館の建築設計を担当した田根剛、ロゴデザインを手がけた服部一成と、写真家の畠山直哉が協働で、煉瓦倉庫の歴史に関するポスター作品を発表します。

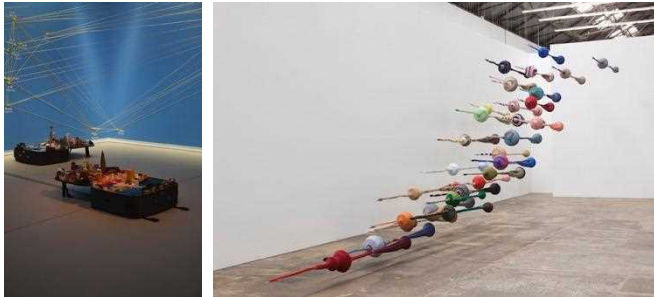
会期中は展覧会関連イベントを予定しています。

詳細は決まり次第、美術館ホームページやSNS等で発表します。

展示作品

○尹秀珍（イン・シウジェン） / YIN Xiuzhen

弘前の市民から提供してもらった 100 着におよぶ古着をもとに、弘前の街をモチーフとした立体作品を発表します。そのほか、古着を用いた過去の代表的なインスタレーション作品を展示予定。



左：《Portable City series》 2001 年- / 右：《Weapon》 2003-2007 年
©Yin Xiuzhen

○ジャン＝ミシェル・オトニエル / Jean-Michel OTHONIEL

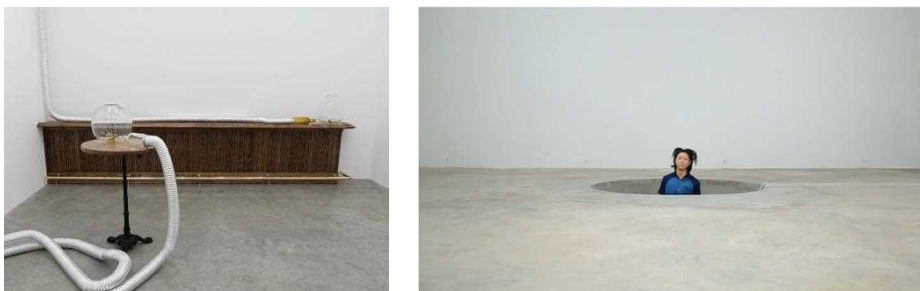
弘前の特産品であるりんごにインスピレーションを受けたガラスの彫刻作品とドロ잉を展示予定。直径 2 メートルにおよぶ大型の作品が、煉瓦づくりの空間を鮮やかに彩ります。



左・中央：《Grand Pivoine》（部分）2015 年 Photo: Claire Dorn [参考図版]
右：《Les Belles Danses (The Beautiful Dances)》2015 年 Photo: Thomas Garnier [参考図版]

○笹本晃 / SASAMOTO Aki

煉瓦倉庫のダイナミックな建築空間に合わせて、旧倉庫に残された古い建具や資材を取り入れたインスタレーション作品を制作します。



左：展示風景：「Past in a future tense」 Bortolami（ニューヨーク） 2019 年
Photo by John Berens ©Aki Sasamoto, courtesy of Bortolami, New York, and Take Ninagawa, Tokyo [参考図版]
右：《random memo random》2016 年 ©Aki Sasamoto, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo [参考図版]

○奈良美智 / NARA Yoshitomo

「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」展（2006 年）をサポートした地域のボランティアの方々への感謝の気持ちとして贈られた《A to Z Memorial Dog》の再展示に加え、近年意欲的に取り組んでいる自身のルーツを辿る旅先での出会いを収めた写真作品を展示します。

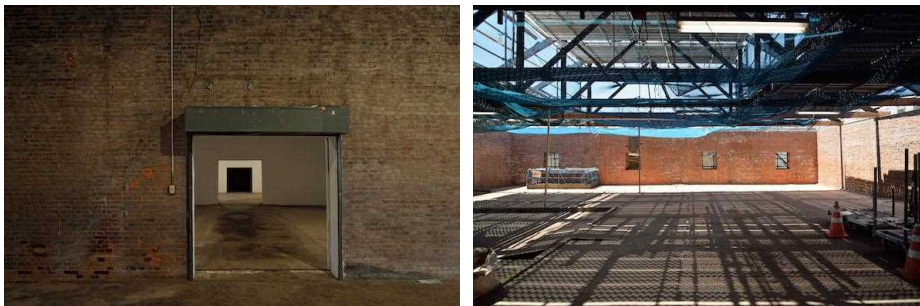


左：《A to Z Memorial Dog》2007 年 ©Yoshitomo Nara 撮影：長谷川正之

右：《SAKHALIN》2014 年 ©Yoshitomo Nara, 2014

○畠山直哉 / HATAKEYAMA Naoya

着工前から約 2 年をかけて撮影された、煉瓦倉庫の改修工事の過程を追った写真作品を展示します。また、煉瓦倉庫の 100 年に及ぶ歴史を取材したポスター作品も新たに制作します。



吉野町煉瓦倉庫の改修風景、2017 年- ©Naoya Hatakeyama

○藤井光 / FUJII Hikaru

煉瓦倉庫が美術館へと生まれ変わる改修工事の過程を記録した映像作品を発表します。建物の過去と現在の空間が呼応する新作展示となります。



《エストニア国立博物館》2018 年 ©Hikaru Fujii [参考図版]

○ナウィン・ラワンチャイクン / Navin RAWANCHAIKUL

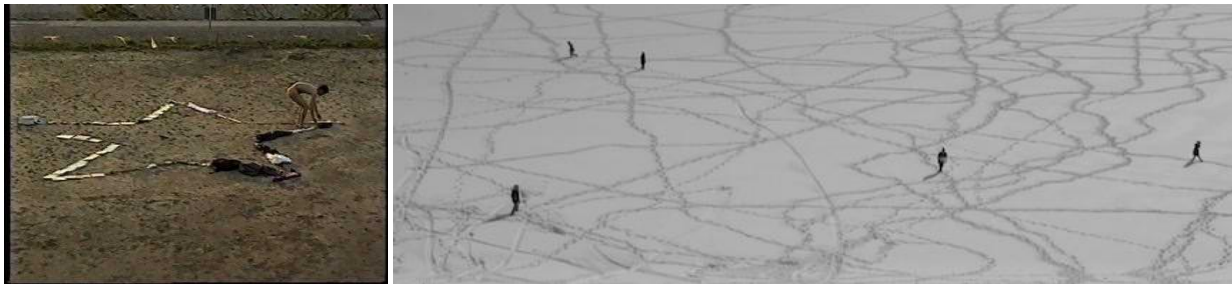
30人以上の弘前市民へのインタビューをもとに制作された、全長約14メートルの大型絵画と映像作品を発表します。弘前や煉瓦倉庫の歴史や文化を感じさせる新作となります。



左：《OK Nakhon》2016年 [参考図版] / 右：弘前のためのスケッチ、2019年 [参考図版]
Courtesy of the artist and Navin Production

○潘逸舟（ハン・イシュ） / HAN Ishu [弘前エクステンジ]

高校卒業まで弘前で過ごした潘が、弘前で発表した最初の作品やその後の代表作を展示します。あわせて、弘前で過ごした当時の記憶から生み出された新作の発表や、会期中のイベントも予定しています。



左：《マイ・スター》2005年 / 右：無題 2016年
©Han Ishu Courtesy of ANOMALY

[弘前エクステンジ]

弘前れんが倉庫美術館では年間を通じて「弘前エクステンジ」プロジェクトを開催します。

「エクステンジ＝交換」という名前に込められたように、本プロジェクトはローカル（地域）とグローバル（世界）、作り手と地域の人々そして鑑賞者といった異なる視点が交差し、ふれあい、交換される場を生み出すことで、地域の創造的魅力的再発見へ繋がることを目指します。

本会期中には弘前ゆかりのアーティスト・潘逸舟を招き、展示やイベント等を予定しています。イベントの詳細は決まり次第、美術館ホームページやSNS等で発表します。

【アーティスト紹介】



｜尹秀珍（イン・シウジェン） / YIN Xiuzhen

1963 年、中国 / 北京生まれ、同地在住。

古着や中古品などを使い、近代化や都市化の中で消滅していく個人的な記憶をすくいあげるような立体作品を制作している。2010 年には、ニューヨーク近代美術館にて中国人女性作家として初の個展を開催した。



｜ジャン＝ミシェル・オトニエル / Jean-Michel OTHONIEL

1964 年、フランス / サン＝テティエンヌ生まれ、パリ在住。

1990 年代初頭より、変容、昇華、変異などの現象に関心を寄せながら、可逆性の素材を用いた作品を制作している。特にムラーノガラス等を用いた、展示環境と調和する数々の大型彫刻作品で世界的に知られる。

Photo: Philippe Chancel



｜笹本晃 / SASAMOTO Aki

1980 年、神奈川県横浜市生まれ、ニューヨーク在住。

空間を彫刻的に分節し、その環境の中で自らの身体によるダンスや、言葉、モノを用いた即興的なパフォーマンスを行う作品を中心に、彫刻やインスタレーションを発表している。

Photo: © Kazuko Fukunaga / Courtesy of National Museum of Art, Osaka, and Take Ninagawa, Tokyo



(c)Yoshitomo Nara

｜奈良美智 / NARA Yoshitomo

1959 年、青森県弘前市生まれ。

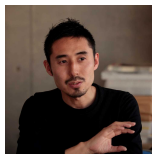
1990 年代半ば以降からヨーロッパ、アメリカ、日本、そしてアジアの各地で、規模にかかわらず様々な場所で展示発表を続ける。見つめ返すような印象的な絵画、日々自由に描き続けるドローイング作品のほか、木、FRP、陶、ブロンズ、そしてインスタレーションなど多様な素材を用い、空間に生命を吹き込むような彫刻作品を制作している。



｜島山直哉 / HATAKEYAMA Naoya

1958 年、岩手県陸前高田市生まれ、東京都在住。

写真家。デビュー時から一貫して、自然・都市・写真術という三つの関係性に主眼を置いた作品を制作している。深い思考とリサーチのもとに撮影される静謐な作品は、文学や思想などの言語表現に共通するものを感じさせる。



｜藤井光 / FUJII Hikaru

1976 年、東京都生まれ、同地在住。

歴史的事象を題材に、社会の不可視な領域を構造的に批評する作品を、主に映像インスタレーションとして発表している。寡黙な事物たちに語り出させるその映像手腕は世界的に高く評価されている。



｜ナウィン・ラワンチャイクン / Navin RAWANCHAIKUL

1971 年、タイ / チェンマイ生まれ、チェンマイ及び福岡県在住。

インド系タイ人という自身のアイデンティティの問題から、コミュニティに根ざしたプロジェクトや作品制作を行う。人々との交流から生きる喜びを見出し、コミュニティに内在する多様性を絵画や映像で表現する。



｜潘逸舟（ハン・イシュ） / HAN Ishu [弘前エクステンジ]

1987 年、中国 / 上海生まれ、東京都在住。

社会と個の関係の中で生じる疑問や戸惑いを、自らの身体や身の回りの日用品を用いて、映像、インスタレーション、写真、絵画など様々なメディアを駆使しながら、真摯に、時にユーモアを交えながら表現する。

開催概要

- | プログラム名： 弘前れんが倉庫美術館 開館記念 春夏プログラム
Thank You Memory ー醸造から創造へー
- | 会期： 2020 年 4 月 11 日（土） - 8 月 31 日（月）
- | 開館時間： 9:00 - 17:00（入館は閉館の 30 分前まで）
- | 休館日： 火曜日（祝日の場合は翌日に振替）※ただし 4 月 28 日（火）、8 月 4 日（火）は開館
- | 観覧料： 一般 1,300 円（1,200 円） 大学生・専門学校生 1,000 円（900 円）
※（ ）内は 20 名様以上の団体料金
※ 以下の方は無料
高校生以下の方/弘前市内の留学生の方/満 65 歳以上の弘前市民の方
ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方/障がいのある方と付添の方 1 名
- | 主催・会場： 弘前れんが倉庫美術館
- | 協賛： やまと印刷株式会社
- | 企画統括： 三木あき子（開館準備年学芸担当）
- | 住所： 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1
- | 一般お問合せ： TEL: 0172-32-8950
- | アクセス： JR 弘前駅より
- 弘南バス・土手町循環 100 円バス「中土手町」下車 徒歩 約 4 分
- 徒歩 約 20 分
- タクシー 約 7 分
- | ウェブサイト： <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS： Instagram： @hirosaki_moca
Twitter： @hirosaki_moca
Facebook： @hirosaki.moca

【美術館の年間プログラムについて】

弘前れんが倉庫美術館の年間プログラムは 3 つのシーズンで構成されます。春夏、秋冬の各シーズンは、グループ展あるいは大型の個展を中心に美術館企画を開催し、冬シーズンは映画上映やパフォーマンス等の特別イベントのほか、市民の様々な活動にも使用されます。

1. 春夏シーズン（美術館企画）
2. 秋冬シーズン（美術館企画）
3. 冬シーズン（市民等の施設利用や特別企画等）

次回展 告知

開館記念 秋冬プログラム

小沢剛「帰って来た」シリーズ オールリターンズ（仮称）

会期：2020年9月19日（土） - 2021年1月11日（月）

風景の中に自作の地蔵を建立し写真に収める《地蔵建立》や、日本美術史上の名作を醤油で描いてリメイクした《醤油画資料館》など数々のシリーズ作品を発表し、世界的に活躍する現代アーティストの小沢剛。近年は、グローバルに活躍した歴史上の人物を題材に、「帰って来た」シリーズに取り組んでいます。本展は弘前ゆかりの近現代の人物を題材とした「帰って来た」シリーズの新作と、これまでの同シリーズ作品で構成するほか、ワークショップなどの開催も予定しています。本展によって近現代における弘前・東北、アジア、グローバルとローカルを巡る様々な問いを投げかけます。

「帰って来た」シリーズとは

小沢が2013年から発表しているシリーズで、グローバルに活躍した近現代の人物を題材に事実とフィクションを交え、絵画、映像、音楽で構成される劇場型のインスタレーション作品。これまでに野口英世、藤田嗣治、岡倉天心などを題材に、ガーナ、インドネシア、インド等世界各地のアーティストとの共同で制作してきました。弘前で発表予定の新作は、本シリーズの5作品目となります。

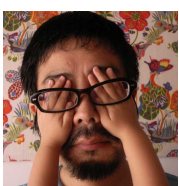


左：《帰って来たペインターF》（部分）2015年 写真：椎木静寧 [参考図版]

右：《ベジタブル・ウェポン—縄文網鍋/青森》2007年 [参考図版]

©Tsuyoshi Ozawa

【アーティスト紹介】



小沢剛 / OZAWA Tsuyoshi

1965年、東京都生まれ、埼玉県在住。

ユーモアを交えながら歴史や社会を鋭く批評する作品を絵画、写真、映像、インスタレーション、ワークショップ等、多様な手法で制作し、国内外で高い評価を得ている。第69回芸術選奨文部科学大臣賞受賞（2019年）。

FAX:03-6369-3596 または E-MAIL press@hirosaki-moca.jp

2020 年 01 月 24 日

2020年4月11日（土）OPEN 弘前れんが倉庫美術館
Thank You Memory —醸造から創造へ—

会期：2020 年 4 月 11 日（土） - 8 月 31 日（月）

広報画像貸出書

▼貴媒体についてお知らせください。

媒体名	貴社名	
ご担当者	所属部署	
ご住所 〒		
電話番号	FAX 番号	E-MAIL
掲載・放映の予定が決まっていたらお知らせください。		

読者プレゼントのご希望 ☐希望する 組 名様（2020 年 7 月 31 日迄 掲載対象） ☐希望しない
* 画像 1 点以上ご掲載の場合、本展の招待券 10 枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担の案内をお願いします。

▼広報画像は、希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

[1]



[2]



[3]



[4]



[5]



[6]



[7]



[8]



[A]



[B]



[C]



広報画像にはすべて以下キャプション・クレジットを併記してください

▼作品画像 * 参考図版を含む

[1] イン・シウジェン 《Weapon》 2003-2007 年 ©Yin Xiuzhen

[2] ジャン＝ミシェル・オトニエル 《Les Belles Danses (The Beautiful Dances)》 2015 年 Photo: Thomas Garnier

[参考図版]

[3] 笹本晃 《random memo random》 2016 年 ©Aki Sasamoto, courtesy of Take Ninagawa, Tokyo [参考図版]

[4] 畠山直哉 吉野町煉瓦倉庫の改修風景、2017 年- ©Naoya Hatakeyama

[5] 藤井光 《エストニア国立博物館》 2018 年 ©Hikaru Fujii [参考図版]

[6] 奈良美智 《A to Z Memorial Dog》 2007 年 ©Yoshitomo Nara 撮影：長谷川正之

[6] の画像提供は作家の意向により、事前に原稿を拝見させていただける場合に限りです。

[7] ナウィン・ラワンチャイクン 《OK Nakhon》 2016 年 / Courtesy of the artist and Navin Production [参考図版]

[8] 潘逸舟 《マイ・スター》 2005 年 ©Han Ishu Courtesy of ANOMALY

▼施設画像

[A] 上空からみたシードル・ゴールドの屋根 ©Atelier Tsuyoshi Tane Architects

[B] 高さ 15 メートルの大型展示空間 ©Atelier Tsuyoshi Tane Architects

[C] 吉野町煉瓦倉庫 外観 ©Naoya Hatakeyama

美術館外観、内観の画像は 2020 年 3 月中旬
展示作品の画像は 2020 年 4 月上旬にご用意する予定です。

< 広報画像、取扱に関する規定 >

- 広報画像の使用は美術館をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- 広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でグラブリ・原稿の段階で広報まで FAX またはメールでお送りください。

本件に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 開館準備室（弘前芸術創造株式会社） 広報担当: 大澤、鎌倉

TEL: 0172-32-8950 FAX: 03-6369-3596 E-mail: press@hirosaki-moca.jp

〒036-8182 青森県弘前市大字土手町 87（旧一戸時計店）

※2020 年 4 月 1 日以降 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1